

— 近畿大学 —

2月11日 前期 B(国際・経済・総合社会学部) 英語

解答

I

- [A] 1. エ 2. イ 3. ウ
[B] 4. エ 5. イ 6. ウ

II

7. オ 8. ア 9. キ
10. カ 11. ウ 12. エ

III

13. イ 14. イ 15. エ 16. イ
17. ア 18. イ 19. イ 20. エ

IV

21. エ 22. ウ 23. エ 24. ウ

V

25. ウ 26. イ 27. ア 28. イ 29. ウ

VI

- [A] 30. オ 31. イ
[B] 32. ウ 33. ア
[C] 34. イ 35. ア
[D] 36. ア 37. ウ

VII

38. エ 39. ア 40. ウ 41. イ 42. イ
43. エ 44. ウ 45. エ (44・45 は順不同)

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解説

III

13. 英文全体は形式目的語構文であり、to 以降が真の目的語を作る不定詞句になっている。不定詞句なので to の後ろは原形で始まる必要がある。すると、選択肢ア. **be known**、選択肢イ. **have known** のどちらかであるが、空所の後ろには **know** に対する目的語があることから受動態の選択肢ア. は不適切である。一方、選択肢イ. **have known** は能動なので後ろの目的語ともうまく繋がる。よって、選択肢イ. が適切である。
14. 副詞節を導く **as soon as** 節の動詞は現在形であることから、実際は未来のことを表していることがわかる。そこから、過去の習慣を表す選択肢ウ. **used to**、選択肢エ. **would often** は不適切である。助動詞の **need** は肯定文では使わないので選択肢ア. **need** も不適切。残るは選択肢イ. **ought to** であるが、**ought to** は現在時制、未来時制いずれにも使えるので適切である。
15. 仮定法過去完了の問題であることを **if** 節の時制から気付けば、主節は選択肢エ. **would have donated** であることがわかる。
16. **speak to** (人)「(人)に話しかける」の受け身は、**be spoken to** となる。よって、選択肢イ. **be spoken to** が適切である。
17. 形式主語の **It** を問うている。よって、選択肢ア. **It** が適切である。
なお、**It occurs to** (人) **that SV**「～という考えが(人)に思いつく」という表現は整序英作文でも狙われやすいので覚えておきたい。
18. 直前の名詞 **the envelope** を修飾する過去分詞の問題。名詞 + **provided** で「備え付けの～」という意味を表す。よって、選択肢イ. **provided** が適切である。
19. **whenever possible**「可能な時はいつでも」という慣用表現を問うているので、選択肢イ. **whenever** が適切である。
20. **hit** (人) **in the stomach**「(人)のお腹を叩く」が受動態になった問題。
よって、選択肢エ. **in the** が適切である。

VI

- [A] 否定の副詞(句・節)+ 疑問文と同じ語順～という倒置を問うている。
In (no case) (should) (any) (electronic devices) (be) (switched) on during ～.
- [B] 完了不定詞 (to have + Vp.p) や、比較の慣用表現 (as many as 「～もの」) を問うている。
The retired professor is (said) (to) (have) (had) (as many as) (5,000 books) in his study.
- [C] It was not until ～ that … 「…したのは～してからだった」「～して初めて…した」という定番の構文を問うている。
(It was) (not) (until) (everything) (was) (all) over that I found it difficult.
- [D] 仮定法過去完了の問題だが、if の省略も併せて問うている。
Mr. Jones (could have) (succeeded) (as an architect) (had) (he) (lived) longer.

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！